

D—4 両親の協力和合と子供の知能及成績の関係について

山口大教育 森田 倭文

1. 私は昨年の家政学会で非行中学生家庭と正常中学生家庭の比較研究結果を報告し、危険地帯にある親子関係が前者に多く、安全地帯にあるものは後者に多いこと、特に父と母の子供に対する態度のくいちがい即ち不一致型検査に於いてその差の著しいことを指摘した。このように、父母の和合協力は子供の性行と重大関係をもつばかりでなく、子供の知能や学業成績とも深い関係があるにちがいないが、どの位の相関度を持つかを究明したいと考えた。

2. 昨年の春私の研究室に於いて、成城大学岡本氏と東京学芸大学藤原氏共著、生活環境診断検査用紙によって、山口県下七小学校五、六年生各1学級児童約450名を対象に家庭環境及び地域差と子供の発達について調べた。そのテストの一部、父母の協和と関係の深い21問だ

けをぬき出して望ましい答の数をその家庭の協和度とし、その調査の際記入して貰った知能偏差値及び学業成績（上・中・下）との相関係数を算出した。

3. 子供の知能と学業成績の相関度が可成り高いことは周知の事実で、本研究でも0.7という数値が出た。父母の協力和合と子供の成績の相関度は0.67で知能と成績の相関度より僅かに低い、父母の協力和合と子供の知能の相関度は0.86と極めて高い数値が出た。